
愛

串間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛

【Nコード】

N7353D

【作者名】

串間

【あらすじ】

自分の病気と向き合わないまま時がすぎ彼女と知り合い恋に落ちる話

俺の名前は小林健二

20歳 性別 男

俺には家族しか知らない秘密がある。

それは……小さな頃から、俺の心臓に穴があり大人になるにつれて、穴は広がり最後には破裂して死んでしまう病気だ。

それから毎日、いろんな病院に行って見てもらったが、どこの病院も治らないと言われ、

そして、ある病院の医者から

寿命は20歳くらいだと言われた。

それからの俺は病気の事だけ考え

学校では友達をつくらず

6年間ずっと1人だった。

それからの俺は病気の事だけ考え

大好きだったサッカーも辞めて

小学4年生の時、検査の為に病院に入院した時があった。

その時同じ病室になった女の子がいた。

名前は 鬼塚幸 おにつかさち

俺と同じ年だ。

幸とは、毎日話した。

学校の事 家族の事 ペットの犬の事

毎日毎日 いろんな話した。

俺には初めて友達が出来た。

それから数日たってから俺は退院した。

そして、現在俺は

もちろん会社でも友達はいない。

友達入院した時、友達になった幸だけだ。

ある日新入社員が、入って来たその人はまぎれもない同じ病室だった

鬼塚幸だった

その日の昼休みに ランチ誘った。

彼女は 『いいですよ』

と言ってニツコリ笑った

つられて 俺も笑った

そして……昼休み

ご飯を食べながら俺は聞いてみた
『俺の覚えてる？』

そしたら

彼女は『うん、覚えてる』と言った

それから 1週間くらい過ぎて

俺は 幸と付き合いだした。
毎日がとても 楽しかった。

ある日デートをしていて、

信号待ちしてたら

幸が倒れた

俺は 焦って

健二 『幸……大丈夫か？』

『幸……俺の声聞こえるか？』

幸が何か言ってるのが聞こえた。幸 あのね……私……病気なの
心臓に穴があいててね……大人……になるにつれて穴が……広がって死……
ぬ……病気なの

ごめんね 健二……

彼女は俺と同じ病気だった。

幸 手…握っ…て

健二 ……う…ん

俺は幸の手を握り締めた

健二 幸……幸……さ……ち

彼女はその場で息を引き取った。

俺も 彼女が死んでから 3日後に死んだ。

俺は 幸といわれた少しの時間は、とても幸せだった。

ありがとう 幸

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7353d/>

愛

2011年10月4日18時46分発行